Nose Jyoruri

能勢の浄瑠璃

200年を越えて生きる伝統芸能

a digest

深化する。進化する。

能勢人形浄瑠璃 鹿角座（ろっかくざ）

永く伝えられた<能勢の浄瑠璃>を地域の財産として守り育てていくと共に次の世代にむけての提案と発展のため、人形・囃子を加えたビジュアル化で、1998年（平成10年）に《ザ・能勢人形浄瑠璃》がデビューしました。人形首（かしら）、人形衣裳、舞台美術、演目(「能勢三番叟」「名月乗桂木」)はすべて能勢オリジナルということで、全国からも注目されました。

太夫・三味線・人形遣い・囃子・こども浄瑠璃（語り・三味線）があり、年間を通して行われるワークショップを受けながら、自主練習、依頼公演と活動しています。

2006年（平成18年）10月には能勢町制施行50周年を機に、新たに名称を《能勢人形浄瑠璃鹿角座》として、劇団の旗揚げをしました。伝統を大切に伝えると共に、新しい時代にも受け継がれて愛される地域の芸能として、育みたいと願っています。

能勢の特色

能勢町は大阪府の最北端、丹波高原の南に位置し標高五百～七百メートルの緩やかな山々に囲まれて、豊かな自然と多くの文化遺産に恵まれた、美しい町です。

古来より日本海方面から瀬戸内海方面への街道筋にあたり、京都から西国への通行路でもありました。また、妙見山への参詣に多くの人々の往来がありました。

この能勢の地におよそ二百年余にわたって、浄瑠璃が受け継がれ、語り継がれてきました。人形を用いず、語りと三味線だけの能勢の浄瑠璃は、能勢の文化的風土のもとで、農業の傍ら土地固有の芸事として庶民によって創られ、伝えられ続けた誇るべき貴重な地域芸能です。

野間（のま）の大けやき
能勢の長い歴史を見続けてきた、樹齢千年の見事な大けやき。大阪緑の百選にも選ばれた国の天然記念物です。

語り手200名を数える。

四派の紹介

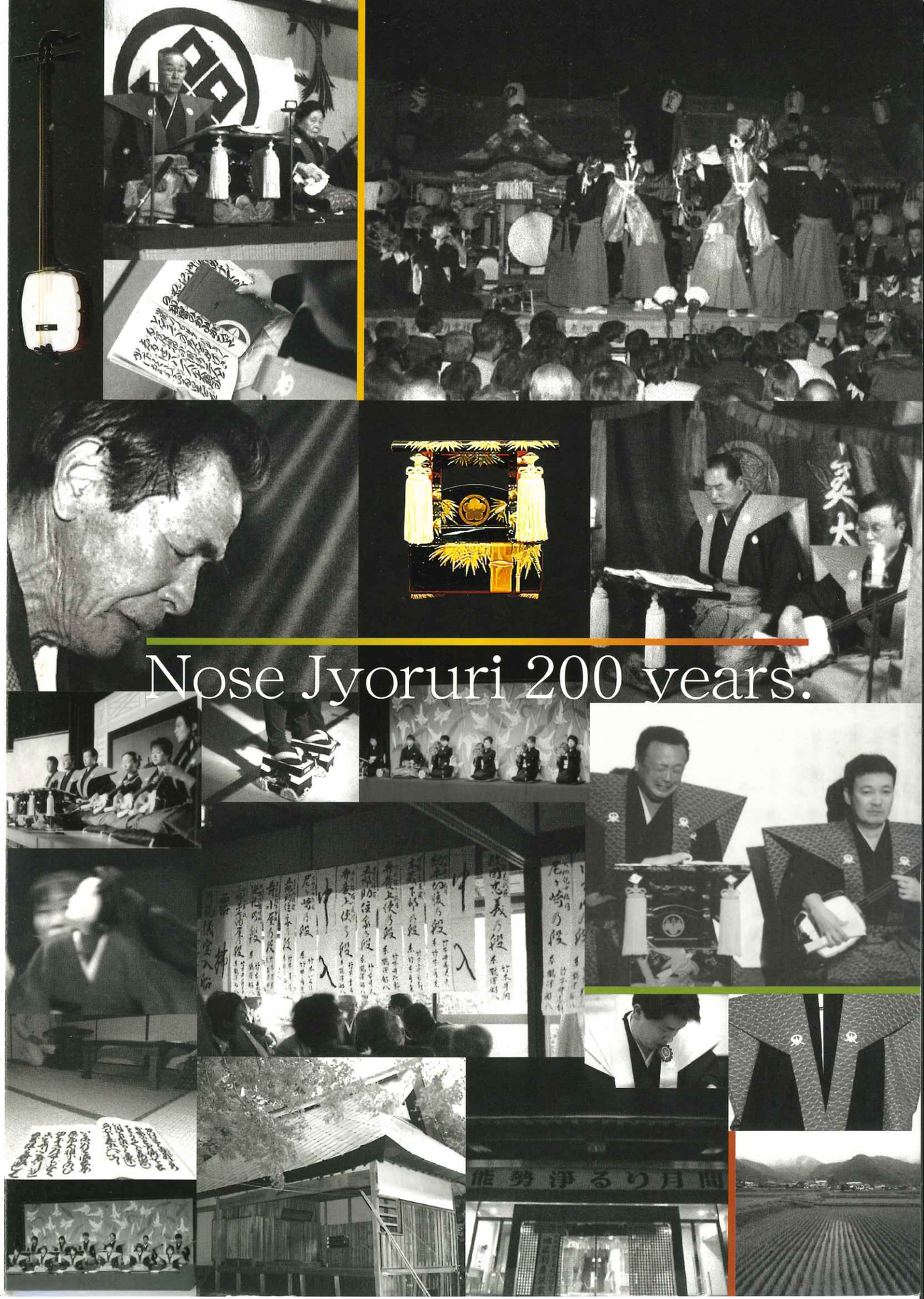
竹本 文太夫派（たけもと ぶんだゆうは）
竹本 井筒太夫派（たけもと いづつだゆうは）
竹本 中美太夫派（たけもと なかみだゆうは）
竹本 東寿太夫派（たけもと とうじゅだゆうは）

古くから親しまれてきた<能勢の浄瑠璃>は、太棹三味線と太夫の語りによって物語が進行する"素浄瑠璃"といわれる渋い座敷芸ですが、江戸時代中期、文化年間（1804～1817年）から今日まで200年にわたる能勢の大切な芸能です。竹本文太夫派・竹本井筒太夫派・竹本中美太夫派があり、互いに励まし競いあってその伝統を継承してきましたが、2001年（平成13年）に新しく竹本東寿太夫派が誕生し、4派となりました。

<能勢の浄瑠璃>の特質は、他に類例をみない"おやじ"とよばれる制度にあり、いわゆる家元にあたりますが、違うのは世襲制ではないということです。"おやじ"になる太夫は弟子を5.6人養成し、後継者の育成を行います。新しい"おやじ"が誕生することで、それまで浄瑠璃とは縁のなかったおやじの周りの町民を浄瑠璃の世界へと誘い込む、つまり浄瑠璃人口の拡大につながっています。

こうして現在でも、200名を越える語り手が存在し、町内各地区に太夫襲名の碑など100余基が残されています。ここ能勢町がいかに浄瑠璃になじみ、親しんできた土地であったかを物語っています。農業のかたわら土地固有の芸事として、農閑期に師匠からマンツーマンで稽古を受け、身につけていったものであること。つまり、庶民によって創られ、伝え続けてきた文化だということです。

1993年（平成5年）に大阪府指定無形民俗文化財、また1999年（平成11年）には、"浄瑠璃という芸能が地域に伝播し伝承される過程で、全国的にも希少な伝承のあり方を生み出したものであり、芸能の過程を知る上で重要"とのことから国の無形民俗文化財の選択を受けています。



日本の伝統芸能（浄瑠璃）の中に見る
能勢の浄瑠璃

1488	能勢頼則により連歌興行があった。
1531	「宗長日記」に浄瑠璃を聞く会の記録。浄瑠璃の発生。
1550	三味線が伝わる。琵琶法師も三味線を手がける。
1592	京都で人形浄瑠璃興行。 語り物の浄瑠璃姫の物語の人気によって、節をもつ語りを浄瑠璃と呼ぶようになった。
1614	金沢で人形浄瑠璃芝居興行、佐渡島歌舞伎興行。
1624	江戸、京都、大坂で人形浄瑠璃が盛んになる。
1651	竹本義太夫、大坂に生まれる。
1653	近松門左衛門、福井に生まれる。
1673	江戸で市川団十郎の荒事、大坂で坂田藤十郎が和事の芸を演じる。
1684	竹本義太夫、大坂で人形浄瑠璃竹本座を創設し「出世景清」を上演。 それまでにあった浄瑠璃は古浄瑠璃と呼ぶことになった。
1703	「曽根崎心中」大当り。豊竹若太夫が豊竹座をつくる。
1734	人形の上演に三人遣いがはじまる。
1743	舞台のセリが大坂ではじめて使われた。
1804	能勢に浄瑠璃がひろがる。この頃、能勢の浄瑠璃に襲名制度がうまれ、 文太夫・井筒太夫・中美太夫の三派の基本ができる。
1805	植村文楽軒が大坂に芝居小屋を開く。文楽座の母胎となる。
1813	娘義太夫が流行。
1855	江戸大地震で歌舞伎三座（中村座、市村座、森田座）が焼失。
1930	文楽座が四ツ橋に開場するが'45年に空襲で焼失する。'46年に復興。
1963	「財団法人文楽協会」設立される。
1966	「国立劇場」が東京に開場、日本の伝統芸能の保存と発展のため。
1974	「能勢の浄瑠璃」大阪府の無形民俗文化財に選択される。
1984	人形浄瑠璃発祥の地大阪に「国立文楽劇場」が開場。
1993	能勢町に「浄るりシアター」がオープン。6月「能勢浄るり月間」がはじまる。 「能勢の浄瑠璃」が大阪府無形民俗文化財の指定を受ける。
1994	「能勢の浄瑠璃」大阪府無形民俗文化財20周年記念。
1995	新作能勢の浄瑠璃に向けての創作戯曲募集。
1996	戯曲賞決定。浄るり月間に素浄瑠璃お披露目。 （能勢人形浄瑠璃に向けての準備）能勢の浄瑠璃史パートⅠ発行。
1998	能勢オリジナル人形を加え《ザ・能勢人形浄瑠璃》がデビューし、 「日本演劇興行協会賞」「大阪舞台芸術奨励賞」を受賞する。
1999	「能勢の浄瑠璃」国の無形民俗文化財に選択される。
2001	竹本東寿太夫派が誕生し、「能勢の浄瑠璃」は四派になる。
2002	能勢町郷土芸能保存会が第35回北カリフォルニア桜祭りに出演する。 響き舞う能勢の浄瑠璃（写真集）発行。 《ザ・能勢人形浄瑠璃》出演依頼公演が多くなる。
2003	浄るりシアター開館10周年。
2004	人形浄瑠璃因協会（三味線の部）に、《ザ・能勢人形浄瑠璃》から2名入会する。
2005	国立文楽劇場にて開催された「第47回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会」 に能勢町郷土芸能保存会が、"能勢の浄瑠璃"として素浄瑠璃で舞台出演する。
2006	能勢町制施行50周年記念事業「全国人形芝居サミット&フェスティバル」を 能勢町に誘致し、浄るりシアターで開催する。 《ザ・能勢人形浄瑠璃》が、《能勢人形浄瑠璃鹿角座》と名称を新たに 劇団として旗揚げ公演を行う。
2007	浄るりシアターが総務大臣表彰（JAFRAアワード）を受賞する。 能勢町が「能勢浄瑠璃の里」として、第29回サントリー地域文化賞を受賞する。 人形浄瑠璃因協会（女子三味線の部）に、《能勢人形浄瑠璃鹿角座》から1名入会する。

浄るりシアター®
〒563-0341 大阪府豊能郡能勢町宿野30 TEL 072-734-3241 FAX 072-734-3240 http://www.town.nose.osaka.jp/jyoruri/index.htm E-mail jyoruri@town.nose.osaka.jp